

○「過疎高齢化が進む集落の農地を守る方策を検討」

(京都府南丹市南丹地区(地域再生)連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

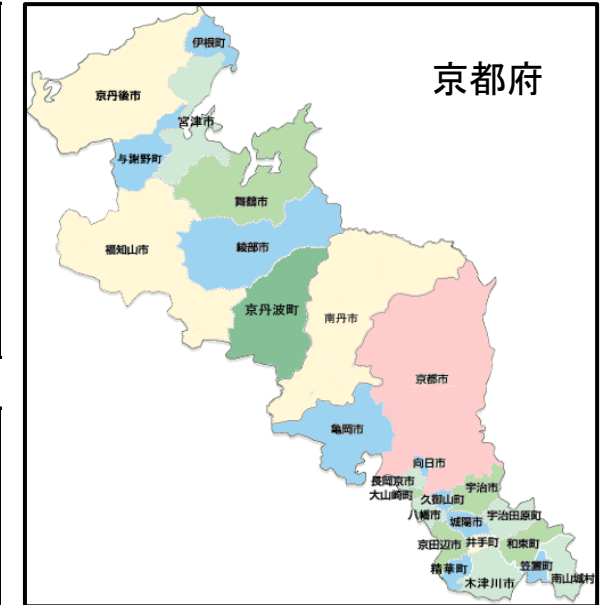
遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年6月5日午後4時~5時
- 場 所: 南丹市役所2号館301会議室
- 出席者: 委員8人
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。
○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、地域資源を活用しながら特産物の開発や育成することが重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 美山町鶴ヶ岡(18集落)全体を対象に検討、議論は困難であるため、集落を絞って議論が必要
- 高齢化が進む中で農地を守るためには、地域外から担い手を呼び込むことも検討
- 地域の良さを知ってもらうためには、都市住民との交流等交流人口を増やす取組を検討、地域に提案
- 美山町鶴ヶ岡(18集落)の中で、上田委員の集落(舟津)の代表等と話し合いをする。
- 次回7月5日農政部会終了後、開催することを決定

4 活動結果

- 情報・意見交換 1 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援